

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103730
法人名	社会福祉法人 喜久寿
事業所名	グループホームウェルケアみどろ
所在地	松山市水産町132番地1
自己評価作成日	H22年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 2 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・職員一人一人が常に利用者と同じ目線に立ち、地域の中で安心して暮らして行けるよう支援しています。  
 ・本人の思いを汲み取り実現に向けて努力しています。  
 ・地域行事などを通して地域住民との関わり合いを大切にしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームに入ると利用者と職員の笑顔が迎えてくれる。利用者は、それぞれができることを役割として担うことが生きがいとなっており、職員はそれを穏やかに支援している。協力医療機関がホームのごく近所であり、定期的な往診によって適切な健康管理に努めている。食事を一日の生活のペースと考えて取り組んでおり、内容的にも満足できるものとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名	グループホームウェルケアみどろ
(ユニット名)	ストロベリーハウス
記入者(管理者)	
氏名	山本 明美
評価完了日	H22 年 1 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「家庭的な温かい雰囲気の中で、人間の尊厳を大切に穏やかで豊かな暮らしを支援します。」と理念を掲げているように、地域での町内行事の参加など地域交流を図っている。</p> <p>(外部評価) 開設当初から掲げている「一人ひとりの尊厳を大切に、穏やかで豊かな暮らしを支援していく」という理念を共有しながら、日々の生活に活かしていくにはどのようにすればいいか話し合い、具体的な指針を決めて実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 秋祭りなどの町内行事の参加を図っている。また、散歩途中などに出会った時など気軽に挨拶や立ち話など会話を楽しんでいる。 運営推進会議にや消防訓練、ホーム内の行事に参加して頂いている。</p> <p>(外部評価) 企業や大型スーパー等が並ぶ国道沿いを入った田畑の残る場所にあり、民家は少ないが、農作業をしている方とは散歩時等に気軽に声をかけ合い、収穫した野菜などもいただく関係がある。町内行事には積極的に参加し、秋祭りには神輿や獅子舞がホームに来てくれている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議を通して地域の方の意見などを参考にしている。また、散歩の時間を利用してのゴミ拾いなど地域の清掃に努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回の運営推進会議を通して、地域 の方々・ご家族の方々の意見を参考にしながら、改善・ サービスの向上に生かしている。	
			(外部評価) 2か月に1回のペースで定期的開催している。毎 回、市担当者、地域包括支援センター、市社会福祉協 議会等からの参加があり、近況報告を主として状況を 把握してもらっている。区長や民生委員の参加もある が、地域の方や利用者家族の参加がやや少ない傾向に ある。	ホームの存在価値や認知症の理解を地域に発信してい くためにも、地域のキーパーソンをメンバーに加え、 より活発に意見交換が行えるような取り組みが求めら れる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市町村の担当の方とは、連絡会や運営推進会議を通 して事業所の実情を把握していただき、助言やアドバ イスを頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市担当者が参加しており、ホームの取 り組みや状況については理解を得ているが、協力関係 を築けているとまでは言えない。	認知症ケアの実践を通して、地域福祉の推進役として 市や地域と協力・協働しながら地域の福祉向上に寄与 していくことが望まれる。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員は身体拘束の内容等を理解しており夜間以外、 玄関の鍵も開け、自由に出入り出来るようにしてい る。どうすれば、安全に暮らして頂けるか、職員同士 で話し合い意見交換をしている。	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて全職員が理解した上 で、安全を確保する取り組みの一つとして時間を決め て所在確認を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ユニット会や介護研修に参加したり、職員間でも話し合いの場を設け、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見人制度を利用されている利用者がおられるので、理解を深め必要な方には活用出来るように職員も学ぶ機会をもっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約については、十分に納得して頂いた上で行っている。また改定の際には、同意書にサインを頂いている。また、疑問点などには説明や相談を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議を通して意見を反映させている。また、苦情受付相談窓口を設置し、ご家族の意見や不満等を伺う機会を設けている。  (外部評価) 苦情受付相談窓口を明示して説明している。また、家族等の来訪時には管理者及び職員から積極的に声をかけたり、運営推進会議への参加を促して意見を聞くよう努めているが、意見を出されることは多くない。	利用者の家族も参加する季節ごとの行事等を活用し、家族だけで気軽に話し合える茶話会等交流の場を提供して、意見や要望を出してもらいやすい雰囲気をつくるなどの取り組みが望まれる。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ユニット会で職員間の意見や提案などを聞く場を設け反映させている。  (外部評価) 日々変化する利用者の支援方法等について、職員の意見や提案を合同ユニット会で出し合い、それを受けて管理者が2か月に1回の法人全体会で提案して検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ひとりひとりに合った労働時間などの条件を聞き、向上心を持って働けるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に積極的に参加できるように働きかけている。また、職員も自主的に参加できるように促している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム交流会や研修等に参加している。また、他の施設からの見学や訪問も受け付けている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前より、本人の意向や悩みなどを相談しコミュニケーション作りをしている。また、安心して暮らしていけるように要望もお伺いしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前より、本人とご家族の方を交え要望等にもお答えしている。また、入居後も本人の生活状態などをお伝えしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人の状態を的確に把握しながら、必要するサービスも含めケアプランを作成し、関係者等から相談し対応に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一緒にレクリエーション活動をしたり、家事のお手伝いや生活を共にすることで家族の一員となり、和やかな関係作りに努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の方が来訪された時には、会話の内容やエピソードなどをお話し、情報を共有している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者の方がこれまでにされてきた事が続けられるように支援している。また、近所に住まれていた方もいらっしゃるの、よく行かれていた神社やスーパーへ赴いたりしている。 (外部評価) 利用開始前に自宅や病院を訪れて事前調査を行い、本人の状態や家族の支援状況等を知るよう努めている。身体機能だけでなく、隣近所との関わりや生活歴、性格などを確認し、入居後の生活につなげるよう意識している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 配膳や洗濯たみ等、ご自分で出来る利用者は難しい利用者の分もしていただいている。 レクレーションや歩行運動の声掛けを利用者同士で出来るように支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 継続的に電話などを通じ、近況を話し合ったり相談に乗ったりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の生活を通じ、職員が利用者の方に要望や意向をお聞きしている。また、本人の生活スタイルを崩さないように支援している。  (外部評価) 日々の生活の中で、会話や行動等から利用者の思いを汲み取り、把握した内容をカンファレンスで共有している。在宅時に近い状態を大切にしながら、健康な生活ができるよう支援している。	利用者一人ひとりの思いや希望を把握することを常に意識し、食事・入浴・散歩時等、生活の全ての場面で感じとった情報を蓄積して共有し、支援に活用していくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前より本人さんの生活歴や生活環境の把握に努めている。また家族の方にも聞かせて頂いたりしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者ひとりひとりの起床時の身支度や掃除など日中の過ごし方、生活リズムを把握するように努めている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<p>(自己評価) ケアカンファレンスを開き、本人の意向や他の職員の意見を参考に現状に即した介護計画を作成し、見直し等も行っている。</p> <p>(外部評価) 1か月毎に担当職員が評価し、3か月毎に出勤者でカンファレンスとモニタリングを行い、個々の状態に即した介護計画を作成している。家族の意見は来訪時や電話等で聞き取り、計画に反映させている。</p>	日々の介護記録の中で介護計画の評価を行えるような記録方法にすることで、課題やケアのあり方等がより具体的になると思われるため、記録の工夫を期待したい。また、当日の出勤者のみでカンファレンスを行うのではなく、より多くの職員の意見を反映することができるようなシステムの検討についても期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<p>(自己評価) 個別のケース記録を記入することで、情報の共有化を図りながら介護計画に生かしている。</p>	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<p>(自己評価) 本人さんやご家族の方の要望を聞き、他のサービスを視野に入れながら同事業所との連携を図っている。</p>	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<p>(自己評価) 地域の民生委員の方や消防署、その他の協力を得ながら意見交換などを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 地域の医療機関との協力を得ながら、適切な医療が 受けられるように支援している。受診時や状態の変化 があった場合など速やかに対応している。</p> <p>(外部評価) 利用者及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援 している。多くの場合、受診には職員が同行して医療 機関等との連携を図っている。協力医療機関による月 1回の往診で日常的な健康管理に努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 看護師訪問時には、入居者の方の変化・状態報告を 行い、適切なアドバイス・対応方法を受け実践するこ とが出来ている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 入院中など病院に訪問し、状態の把握を行い主治医 との情報交換を密に行っている。退院後も生活に変化 がないかなど状態把握や支援をしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) ご家族の要望を重視し、状態の報告・連絡を密に 行っている。また、主治医と連絡を取りながら方針を 共有している。</p> <p>(外部評価) 看取りに関する指針を作成し、入居時に本人及び家族 に説明して同意を得ている。早くから医師、看護師等 の協力も得ながら話し合いを重ねている。</p>	<p>利用者の状態や家族の意向も日々変化していくことを 考慮し、ホームの対応力を常に把握し、どこまでの支 援が必要で、どこまで対応できるか等について、家族 や医療関係者と連携しながら全職員で話し合いや勉強 会を繰り返すことが望まれる。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべての職員が訓練を受けてはいないが、マニュアルを統一し、共有している。応急手当の講習会には、積極的に参加している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 運営推進会議において、消防署の方や区長をはじめ民生委員の方の助言やアドバイスを受けている。  (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、今年度は運営推進会議のメンバーの参加も得て実施している。2階からの避難は職員のみでは難しいことを実感して、課題としている。区長が地区の自主防災組織の中にホームを組み込むことを提案してくれている。	近隣の企業や民家を巻き込んで、具体的な役割を担ってもらえるよう働きかけ、顔の見える関係をつくっていくことができるような働きかけを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者ひとりひとりの状態に合わせて対応している。また、さりげない介助を行うよう心掛け、本人さんの能力に応じた対応をしている。  (外部評価) 理念の中にも掲げているように、利用者の尊厳を大切にしている。居室はプライバシーゾーンとして捉え、また入浴や排泄時の言葉かけ、対応等には細心の注意を払っている。書類の管理等も含め、職員は守秘義務について繰り返し確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意志や意向などが表現しやすいように言葉かけを行ったり、分かりやすい説明を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 利用者さん一人ひとりの生活リズムやペースを大切にし、それに沿った支援を心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時などその人にあった洋服選びや、利用者さんと一緒に洋服を選んだりしている。散髪は、本人さんの希望を聞き望むお店に行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニュー作成時に利用者さんの意見や希望を聞き、参考にしてしている。また、買い物や配膳等ができるよう支援している。テーブルを囲みながら一緒に食事ができるように心掛けている。  (外部評価) 利用者にとって食事がなにより楽しみとなるよう、メニューや材料も十分吟味し、買い物にも利用者と一緒に出かけている。調理等にもできる人は参加し、食への思いを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量や水分摂取量など個々に把握し、一日を通じて確保できるように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 食後には、必ず歯磨きをしている。また、ポリデントを使用しての入れ歯洗浄で清潔保持を努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個々の排泄記録表で排泄パターンをチェックし、トイレ誘導や声掛けにより排泄の自立に向けた支援を行っている。	
			(外部評価) 排泄の自立が生活に自信と安心を支えていくと考え、生活パターン、身体状況、服用の様子等に注意を払い、トイレでの排泄を目指して常に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘予防のために、野菜をメニューに取り入れている。また、水分の摂取やリハビリ体操・散歩・歩行運動に参加して頂いたりしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に添うように支援している。ひとりひとりの状態に合わせた入浴を行い、清潔保持に努めている。	
			(外部評価) 希望があればいつでも入れるように、毎日準備している。タイミングよく声をかけ、清潔を保てるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々に応じた生活習慣を大切にしている。布団や枕カバー等の清潔保持を行い、気持ち良く休息・安眠できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 用法や用量など個々のファイルに保管し、理解している。また、状態の変化などにも注意を払っている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 掃除・洗濯などの日常生活の役割を決めて、その人にできる支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は、近くの神社など散歩をしている。外出行事など工夫し利用者の方が喜んで頂けるよう支援している。	
			(外部評価) 近所の神社への散歩、食材の買い物などを日常的に行っている。夕涼み会、花火など戸外の空気に触れる機会を確保したり、花見やぶどう狩りなど季節ごとの遠出も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人が所持し、利用されている利用さんもいる。必要なものや欲しいものは、職員と一緒に買いものに行きなるべく、楽しく買い物が出来るよう支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族の方に手紙を送れるよう文字の練習を行ったり、年賀状などみんなで作り発送したりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関やホールなど利用者・職員の手作りのものを飾ったり、季節に応じた作品や花などを置き居心地が良いように工夫している。	
			(外部評価) 共用空間は清掃が行き届き、壁面には利用者の笑顔いっぱいの写真や季節感あふれる手作りの品が飾られ、安心感があふれ居心地が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングホールにソファを置き、仲の良い利用者さんと談笑したりしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時にご本人・ご家族の方と相談しながら、間取りを考えたり、ご本人の馴染みのものを配置しながら居心地よく生活できるよう工夫している。	
			(外部評価) 十分な広さがあり、ベッドの配置も思い思いにできる。冷蔵庫やテレビ、小物入れ、小ダンスなどを持ち込み、家族の写真、趣味の品を飾り、利用者の生活スタイルがうかがえる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 手すりを設置し、歩行の助けにしたり場所を分かりやすくイラストや大きい文字にしたり、各居室には名前プレートと写真を貼って迷わないなどの工夫をしている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103730
法人名	社会福祉法人 喜久寿
事業所名	グループホームウェルケアみどろ
所在地	松山市水産町132番地1
自己評価作成日	H22年1月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 **※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載**

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 22 年 2 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員一人一人が常に利用者と同じ目線に立ち、地域の中で安心して暮らして行けるよう支援しています。</li> <li>・本人の思いを汲み取り実現に向けて努力しています。</li> <li>・地域行事などを通して地域住民との関わり合いを大切にしています。</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームに入ると利用者と職員の笑顔が迎えてくれる。利用者は、それぞれができることを役割として担うことが生きがいとなっており、職員はそれを穏やかに支援している。協力医療機関がホームのごく近所にあり、定期的な往診によって適切な健康管理に努めている。食事を一日の生活のペースと考えて取り組んでおり、内容的にも満足できるものとなっている。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームウェルケアみどろ

(ユニット名) ブルースカイ

記入者(管理者)

氏名 山本 明美

評価完了日 H22 年 1 月 10 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 開設当初より、理念を掲げ管理者と職員は共有している。また、その人らしく暮らしていくという理念を生活を共にする中で生かされている。</p> <p>(外部評価) 開設当初から掲げている「一人ひとりの尊厳を大切に、穏やかで豊かな暮らしを支援していく」という理念を共有しながら、日々の生活に活かしていくにはどのようにすればいいか話し合い、具体的な指針を決めて実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) お散歩の際に、ちょっとした会話や訪問者の方など少しずつではあるが、交流を深めている。地域の秋祭りなどの行事には来訪客も多い。</p> <p>(外部評価) 企業や大型スーパー等が並ぶ国道沿いを入った田畑の残る場所にあり、民家は少ないが、農作業をしている方とは散歩時等に気軽に声をかけ合い、収穫した野菜などもいただく関係がある。町内行事には積極的に参加し、秋祭りには神輿や獅子舞がホームに来てくれる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地域の方が、介護相談に来所された場合にはご相談にのり、場合により事業所紹介などを行っている。また、地域包括支援センターにも連絡をとり、情報や相談を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2か月に1回の運営推進会議を通じて、近況報告や状況把握を行い、その都度対応の方法や理解相談をいただいている。	
			(外部評価) 2か月に1回のペースで定期的開催している。毎回、市担当者、地域包括支援センター、市社会福祉協議会等からの参加があり、近況報告を主として状況を把握してもらっている。区長や民生委員の参加もあるが、地域の方や利用者家族の参加がやや少ない傾向にある。	ホームの存在価値や認知症の理解を地域に発信していくためにも、地域のキーパーソンをメンバーに加え、より活発に意見交換が行えるような取り組みが求められる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市の社会福祉協議会の方とは、運営推進会議など通じて、顔見知りになり介護の相談やアドバイス・実情を話し合っているが、運営推進会議以外では交流があまりないのが実情である。	
			(外部評価) 運営推進会議に市担当者が参加しており、ホームの取組みや状況については理解を得ているが、協力関係を築けているとまでは言えない。	認知症ケアの実践を通して、地域福祉の推進役として市や地域と協力・協働しながら地域の福祉向上に寄与していくことが望まれる。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束の内容や基準を職員は把握しており、ケアカンファレンスやユニット会において話し合っている。 施錠に関してはセンサーを設置している。所在確認表にてせりげない確認を行なっている。利用者さんの安全を考慮し、ご家族との相談により了承を得ている	
			(外部評価) 身体拘束をしないケアについて全職員が理解した上で、安全を確保する取組みの一つとして時間を決めて所在確認を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) どのような場合が虐待となるのか、ホームでの生活において随時確認と会議等で話し合っている。また、入浴介助の際など、あざや傷などの身体の確認を行っておりその都度報告・連絡をしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 利用者の立場に立った権利を職員は理解しており、成年後見人制度の理念や理解を会議において話し合っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者さんやご家族の方には、十分納得した上で了承を得ている。また、料金改定などにおいては、説明・理解を得たうえで同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 苦情受付相談窓口を設置し、利用者さんやご家族の意見が速やかに把握・対応できるようにしている。また、運営推進会議においては、利用者さんにご家族の方には積極的に参加していただくよう促している。  (外部評価) 苦情受付相談窓口を明示して説明している。また、家族等の来訪時には管理者及び職員から積極的に声をかけたり、運営推進会議への参加を促して意見を聞くよう努めているが、意見を出されることは多くない。	利用者の家族も参加する季節ごとの行事等を活用し、家族だけで気軽に話し合える茶話会等交流の場を提供して、意見や要望を出してもらいやすい雰囲気をつくるなどの取り組みが望まれる。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 合同のユニット会において、普段の運営に関する質問事項や相談などの意見を聞く場所を設けている。また、提案などを職員間で話し合い反映させている。  (外部評価) 日々変化する利用者の支援方法等について、職員の意見や提案を合同ユニット会でも出し合い、それを受けて管理者が2か月に1回の法人全体会で提案して検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 労働時間や賃金の面など各自が相談に行けるよう環境整備に努めている。また、職員ひとりひとりがやりがいをもち職務に努められるよう話し合いの場を持っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員が自主的に社会福祉協議会主催などの研修などに参加できるよう促している。法人内の会議においては、研修発表などを通じ理解を深めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 地域包括支援センター主催の連絡会やグループホーム交流会を通じて他の事業所との交流を図り、サービスの向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前より、ご本人の希望やご家族の意向を適切に把握するように努めている。また、意向や不安な面など介護計画に反映するよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人の不安な面や要望などに耳を傾けつつ、初期よりコミュニケーション作りに努めている。また、ご家族が来所された場合には、近況報告など話し合っている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 利用前訪問時より、本人さんやご家族との話し合いの上で、本人さんが必要とする支援を確かめ他のサービスを含めた話し合いをしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活を共にする中で、外出行事と一緒に参加をしたり相談や悩みを聞きできるだけ本人の希望に添えるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族が、訪問・来所された場合など利用者さんと気軽に話ができるよう雰囲気づくりに気を配っている。 また、ご家族が本人の食事介助を自主的に行っていたりしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 利用者さんの友人や知人の方の面会など気軽に来ていただいている。また、関係が途切れないよう家族との連絡を随時していただいている。  (外部評価) 利用開始前に自宅や病院を訪れて事前調査を行い、本人の状態や家族の支援状況等を知るよう努めている。身体機能だけでなく、隣近所との関わりや生活歴、性格などを確認し、入居後の生活につなげるよう意識している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 一緒に外出行事に参加したり、利用者間の交流を図っている。また、みんなで集まって和気あいあいと食事をする時などお互い気遣いながら声掛けをし合ったりしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所された方の近況報告や、電話と通じての交流など関係を築いている。また、相談等があればその都度話し合っている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者と生活を共にしていく中で、本人さんの意向や要望把握に努めている。 また、意思疎通が困難な利用者の方には、本人の気持ちを汲み取るよう支援している。 (外部評価) 日々の生活の中で、会話や行動等から利用者の思いを汲み取り、把握した内容をカンファレンスで共有している。在宅時に近い状態を大切にしながら、健康な生活ができるよう支援している。	利用者一人ひとりの思いや希望を把握することを常に意識し、食事・入浴・散歩時等、生活の全ての場面で感じとった情報を蓄積して共有し、支援に活用していくことを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居前より、どのような生活を送っていたのか状況の把握に努め、ホームでの暮らし方について話し合いの場をもっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 本人さんの一日の生活スタイルやペースを把握し、一方的な介助にならないように普段より気配りや気持ちの把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアカンファレンスにおいて、本人さんや家族の意向などを汲み取り介護計画に反映させている。また、各担当の職員は決まっているが、職員間で意見やアイデアを出し合いながら援助計画を作成している。  (外部評価) 1か月毎に担当職員が評価し、3か月毎に出勤者でカンファレンスとモニタリングを行い、個々の状態に即した介護計画を作成している。家族の意見は来訪時や電話等で聞き取り、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) その日の生活のリズムや気付きなどを個人のケース記録に記入したり、以前とじょうたいが変化した場合など申し送りノートに職員全員が目を配れるようにしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人さんや家族の意向を踏まえながら相談を行い、その他のサービスを視野に入れながら援助している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域のふれあいサロンなどの利用や、消防署の方との連携を図り、安全で暮していけるよう支援している。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価)</p> <p>主治医との密な連携を行っている。基本的には、 サービス利用時には健康診断をご家族同伴で行って いる。 また、利用者さんが病状に応じた適切な医療が受け られるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者及び家族の希望するかかりつけ医の受診を支援 している。多くの場合、受診には職員が同行して医療 機関等との連携を図っている。協力医療機関による月 1回の往診で日常的な健康管理に努めている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価)</p> <p>週2回の訪問看護の来所時に、普段の生活を診てい ただいている。病状の変化や気付きなどの際には、適 切なアドバイスや指示を得て支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価)</p> <p>入院先との医師と連絡を取り合い、病状把握に努め ている。また、病院先にお見舞いをした場合など医師 や看護師との情報交換や相談に乗っていただしてい る。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価)</p> <p>サービス利用時において、看取りに関する指針につ いて説明を行っている。また、早期より医師・看護師 との協力のもと検討を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>看取りに関する指針を作成し、入居時に本人及び家族 に説明して同意を得ている。早くから医師、看護師等 の協力も得ながら話し合いを重ねている。</p>	<p>利用者の状態や家族の意向も日々変化していくことを 考慮し、ホームの対応力を常に把握し、どこまでの支 援が必要で、どこまで対応できるか等について、家族 や医療関係者と連携しながら全職員で話し合いや勉強 会を繰り返すことが望まれる。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時の対応方法などマニュアルを作成している。また、職員が自主的に救急時の対応についての研修を受けたりしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の消防署や区長をはじめ民生委員の方と、運営推進会議において話し合いの場を設け、ホームの利用者さんの状況や避難方法などについて助言やアドバイスをいただいている。  (外部評価) 消防署の協力を得て避難訓練を実施しており、今年度は運営推進会議のメンバーの参加も得て実施している。2階からの避難は職員のみでは難しいことを実感して、課題としている。区長が地区の自主防災組織の中にホームを組み込むことを提案してくれている。	近隣の企業や民家を巻き込んで、具体的な役割を担ってもらえるよう働きかけ、顔の見える関係をつくっていくことができるような働きかけを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人のプライバシーを汲み取りながら、さりげない介助をしている。人生の先輩という意識を持ちながら、言葉かけにも注意している。  (外部評価) 理念の中にも掲げているように、利用者の尊厳を大切にしている。居室はプライバシーゾーンとして捉え、また入浴や排泄時の言葉かけ、対応等には細心の注意を払っている。書類の管理等も含め、職員は守秘義務について繰り返し確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 洋服選びや趣向品などを考慮に入れつつ自己決定できるように支援している。また、日常の中で思いを汲み取るよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人さんの一日の生活リズムを的確に把握し、今まで培ってきた趣味や特技など考慮し支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人さんの好きな色や洋服など把握し、好みで着ていただいている。またネックレスや指輪などを日常のおしゃれを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) メニューを開きつつ参考にしたり、食事の配膳や下膳など出来る方は、自発的にしていただいている。 食事は楽しみな利用者も多く、毎日よく召し上がられているようす。	
			(外部評価) 利用者にとって食事がなにより楽しみとなるよう、メニューや材料も十分吟味し、買い物にも利用者と一緒に出かけている。調理等にもできる人は参加し、食への思いを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一日を通しての栄養摂取や水分補給などはチェック表において的確に把握している。 また、状態に応じてお声掛けなどをしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自発的にできる方は、見守りをしている。ご自分で出来ない方は、口腔内の清潔保持を援助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表において、本人さんの排泄パターンを把握している。また、さりげない誘導によりトイレでの排泄を心掛けている。	
			(外部評価) 排泄の自立が生活に自信と安心を支えていくと考え、生活パターン、身体状況、服用の様子等に注意を払い、トイレでの排泄を目指して常に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 偏食や残食のないように支援している。また、水分も十分摂って頂くよう働きかけている。 歩行運動など身体を動かして頂くよう支援している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) なるべく本人さんの意向に沿うよう支援している。 個々の身体状況に応じて見合わせる場合もある。またラックスして入浴ができるよう支援している。	
			(外部評価) 希望があればいつでも入れるように、毎日準備している。 タイミングよく声をかけ、清潔を保てるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ひとりひとりの希望や休息リズムに対応し、居室にて休んでいただく時間をとっている。また、夜間気持ちよく睡眠をとっていただくよう寝具の清潔保持に努めている。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬の効用や副作用など把握し、状態の異変があった場合など医師との連絡を取り合ったりしている。服薬の際は、職員が直接配り誤薬がないよう注意をしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 本人さんの能力を見極め、日常生活においてちょっとしたお手伝いや楽しみを見つけて支援している。 外出行事などにおいて、普段行かない場所にドライブに行ったり、気分転換を行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) なるべく本人さんの希望に添うように外出支援を行っている。屋外に出ることで気分転換を図っている。 屋外行事においても普段行けない場所等にも行っている。	
			(外部評価) 近所の神社への散歩、食材の買い物などを日常的に行っている。夕涼み会、花火など戸外の空気に触れる機会を確保したり、花見やぶどう狩りなど季節ごとの遠出も楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ご本人で所持し、使うことの楽しみを得ている。また、金銭管理が難しい方は本人さんの希望や意向に合わせて購入を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人さんの訴え等にも耳を傾け、ご家族や親類の方にも電話等で連絡を行っている。手紙等も年賀状などを通じて、疎遠にならないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ホール共用部においては、外出行事やイベント事の写真を置き、目を通して頂いている。また、季節感を出すため花や飾りを置いている。	
			(外部評価) 共用空間は清掃が行き届き、壁面には利用者の笑顔いっぱいの写真や季節感あふれる手作りの品が飾られ、安心感があふれ居心地が良い。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共用部において、居心地の良いソファを置きリラックスしていただいている。また、気の合う利用者と食事の際にお隣の席にするなど考慮している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 使い慣れたものや馴染みのものなど、ご家族と相談しながら各居室に配置して頂いている。また、家族から持ってきて頂いたものなど生活環境を考慮に入れつつ取り入れている。	
			(外部評価) 十分な広さがあり、ベッドの配置も思い思いにできる。冷蔵庫やテレビ、小物入れ、小ダンスなどを持ち込み、家族の写真、趣味の品を飾り、利用者の生活スタイルがうかがえる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 場所や各居室がわかるよう、誘導テープや顔写真や名前を入れるなどの工夫を行っている。また、広く安全な場所を確保するよう住環境にも目を配っている。	